

石城時報

石城時報編輯部
印刷部
發行部
電話
地址

赤土内務部長一行 石城の災害視察

十八日縣官を率ひて來郡 土木工事の損害十餘万圓

赤土内務部長は縣官數名と共に欠濱、護岸工事の破損、橋梁流
十八日午後零時五十分來平、失その他十二三萬圓に達する
小林平土木監督所長の案内で植見込みである。

鹽釜に入港

清勝丸
松柏館に投宿の豫定で、十九日 消息不明で安否を氣遣はれてる
は江名町の被害状況を視察し石 江名町佐藤助五郎所有船清勝
丸は十八日午後二時無事鹽釜港 に入港した旨電報があつた。

青年訓練生一千余名の 華々しい發火演習

十九日から二日間巨り 湯本、泉、玉川方面で舉行

石城郡下四十三青年訓練所一千八百時第一日演習終了。
餘名參加の聯合發火演習は昨(二十)日は第一中隊玉川
の如く十九日午前九時統監部は第二、第三中隊を南湯本支
湯本町小學校に集合し演習の経路を北軍として拂曉戦を行ふ等
過、審判規定、その他につき詳細になつてゐる、演習概要は左の
細打合せを午後三時までに如し。
玉川、泉、渡邊、湯本、各部隊 演習第一日
は各々その小學校に集合し 十一月十九日午前九時迄に統
監部員(統監部中央審判官南 兩北軍專署審判官)は湯本町
午後七時から湯本中隊攻撃對玉 小學校新校舍に集合し演習の
川中隊の泉中隊攻撃對湯本中隊 經過、審判規定其他につき詳
の組合せで戰闘は開始され午後

玉中隊防禦、湯本中隊攻撃
二、泉中隊と渡邊中隊對抗
渡邊中隊防禦、泉中隊攻撃
午後六時半情況開始、午後八
時演習終了
演習第二日
▲南軍第一中隊(玉川部隊)同第
二中隊(泉部隊)同第三中隊(渡
邊部隊)は前夜の中明拂曉
攻撃に關する支隊命令を受領
す。
▲北軍支隊は二十日拂曉防禦に
關する支隊命令を受領す
▲兩軍共午前七時斥候行動
▲午前七時半部隊の行動
▲北軍は午前八時半攻撃準備位
置
▲午前九時半演習終了の豫定
▲午前十時五分戰闘對抗を解
き編成のまゝ閱兵分列式舉行

貧困病人無料で治療

濟生會の交付金で 平署で該當者調査

平町では毎年恩賜團濟生會から協議の結果十二月一日より一
貧困者の疾病治療費として七十升から五錢宛値上げすること
圓乃至八十圓を交付されてゐたが、本年は長き邊りの特別の御
恩召もあり經常費七十五圓の
外に九百五十圓だけ増額して交
付されたので平警察署では外勤
調査に命じて平町内の貧困者に
して治療を受けてゐないもの
調査を開始したが、該當者發見
次第右豫算の許す範圍内に於て
治療を施す事になつた。

小名濱消防檢閲

小名濱消防檢閲は十九日午前八
時から同町小學校で行ふ。

醬油値上

石城醬油
醸造組合では原料暴騰から小買
値段を改正値上げすることゝな

豊間の金盛丸 遭難確實と見らる

搜索隊が近海搜索 氣遣はる、十四名の命

石城郡豊間村遠藤々之助所有金盛丸は、
盛丸五十五馬力十五噸)はその
後行衛不明であるため十七日豊
間村では搜索隊を組織し發動機
船に分乗して搜索に出發したが
金盛丸は比較的小型の漁船であ
り機部にも故障があつたとい
ふので遭難を豫想されてゐる。
因に同船の乗組員は左の十四名
四家信之助(二九)四家勝(二
二)四家福次郎(三三)四家捨
吉(三三)鈴木健太郎(三五)針
山徳松(二四)四家重吉(三七)
遠藤福太郎(二四)鈴木幸太郎
(四五)鈴木真(十五)遠藤繁七
郎(十七)遠藤健太郎(三七)四
家喜八郎(二六)四家勇(二三)

石城七濱の漁業家 致命的損害を被る

暴風雨の被害については各方面 礎とすべき船舶、漁具をさらは
共懸命の調査を行つてゐるが正れた漁師達こそ真に悲惨の極と
確な数字は全く不可能といふべし。波浪は今日に至るも
く、海岸地方の被害は殊に夥し、向高各防波堤岸壁等を襲ひ小
い。河川氾濫による稲束の流失、江名、豊間、四倉等の折
に伴ふ農家の悲嘆もさる事ながら角の工事も殆ど原形に戻り、そ
ら、人命を失つた漁業生活の基の損害のみで數萬圓に上り縣當
局は勿論地元民は全く絶望的な
落際の中に投げ込まれてゐる。
天候の漸次回復によつ左記の如
く生死が判明すると同時に行衛
不明中の各漁船は或は大破して
るのを發見され、或は歸港し
不幸中の幸ひを齎しつゝあるが
未だに消息不明絶望を傳へられ
てゐる漁船もあり關係のみの死
傷者も相當多數に上つてゐる。

平青年團の旅行が縁で 二十年ぶりで親子再會

平町青年團で遊さる十二月見
學旅行として多田井團長以下
十數名が栃木縣下奥鬼怒の絶
勝鬼怒川温泉へ赴いた、大火
の間もなく未だ復興の絶の音
も聞こえぬ時である。一行は
鳥居に歸した三十餘戸の焼け
跡に同情を投げつけ、同所旅館
鬼怒川館に投宿した。
そこに雇はれてゐた三十歳位
の中肉中脊丸顔の女中さんは平
町の人と聞き懐かしさを感した
町の人に来て根掘り葉掘り
平町の様子を問ふのであつた

小作人が 地主と衝突

石城郡植田町地主齋藤某小作人
九日午後二時ごろ齋藤方に至
り種々懇談することゝあつたが
地主の態度強硬なため亂闘さ
まで演じ齋藤は頭部その他に負
傷したので平署に告訴し同署で
關係者を取調べてゐるが野崎側
には全協系の農民組合、玉川支
部が尻押ししてゐる模様で相當問
題は擴大する模様である。

彼の女はその劫火に救へられ
たところがあつた、それは人
生は明日をも判らぬもの躊躇
しては樂みの日もなくなるか
さねばならぬと決心し平へ探
かうとしたとき偶然にも平の
青年團に遭ひ、その情に絶る
事が出来たのであつた。
翌十四日の夕刻平町白銀町に
住む飯高春吉(六十)といふ老
人と小銀治(二十)といふ老
父と子が來し方の苦も忘れて
いつまでも相擁して遊返の嬉
し涙にぬれた。向つた一人
の兄も湯本方面にゐる事が判
り近く逢ふ事が出来る事判
春を待たず冬に入つて間も
なく彼女の心には喜びの花が
咲いた。

外科 花柳病科 專門

平町六丁目橋際

木村外科醫院

電話三〇九番

磐中對平商業 優勝旗爭奪野球戰

兼て發表した磐城中學校對平商業學校優勝旗爭奪野球試合は日時を左の如く變更舉行致します。

一、第一回戰
十一月二十三日午前十時より

一、第二回戰
十一月二十七日午前九時より

一、場所 磐城中學校球場

磐城時報社

處方調劑 藥品一般 化粧用品 体温計

平町五丁目

山野邊藥局

郷土生藥研究 和漢藥療法

東華皇漢研究所

顧問 藥學博士 柳澤秀吉先生
藥劑士 山野邊東次郎

かまぼこ 折詰仕出し

御惣菜用さつま揚 吉原揚

平町二丁目

藤市蒲鉾店

電話三〇五番

カクニ石鹼 ツルヤ

生命と信用を賭して 精選せる純良の 質と量

最後の一片が消え去る迄 優雅な香が續く……

化粧用 一ヶ 十銭
洗濯用 一ヶ 十銭

平町4 電140

世界の名湯國立療養所の所在地 別府の天然家庭温泉

命の洗濯

一、温まる事は天然温泉と變りません
一、萬病に靈驗的効果のある天下の別府温泉を日常家庭で 湯治の出来る貴重な家庭温泉

一、從來の浴劑を斷然優越せる新發見劑
一、石鹼の使用は出来る、白粉の伸を良くす、皮膚を美化 する理想的浴劑

疲勞回復 健康増進の鍵 病魔征服 傳染病豫防の武器

眞の温泉療法は「若葉の三四月から「夏に於て最有効な時期です、是非御試用願ひます。

六回分 (二日使用 十二日分) 五十銭
十四回分 (同 廿八日分) 一〇〇銭
三十四回分 (同 二ヶ月八日分) 二〇〇銭

平町四丁目

命の洗濯代理店 **小野屋藥舖**

電話一四四番

心安積蓄 利低通融

三幸無盡

許免臣大藏大

社會盡無用信本湯

番七四話電

腸胃 毒校

內科 專門 腸十二指腸 腸胃病

婦人病 皮膚病 專門

院醫科腸胃村松

【番七〇一話電】町南町平

計免臣大藏大

磐城無盡

會社

內科 小兒科

花柳病科

藤沼醫院

平町紺屋町

電話平四五〇七番

三河産業博覽會 昭和産業博覽會 **金牌受賞**

お惣菜用 さつま揚 吉原揚

平町一丁目

かまぼこ 折詰仕出し

製造

電話一四一番

城磐 **共濟病院案內**

院長 醫學博士 石山謙 郎

小兒科 醫學博士 石山謙 郎
醫學士 佐久間重 次
外科耳鼻咽喉科 醫學士 桂馬重 二
喉科皮膚科 醫學士 有馬重 二
產婦人科 醫學士 五十嵐雄 二
X光線科 醫學博士 石山謙 郎
技術師 石山謙 郎
衛生試驗所 醫學博士 石山謙 郎
技術師 高石山謙 郎
藥局 藥劑士 吉本孝 平

◎診療時刻午前八時より午後五時迄
但急患は此の限りに非ず

平町 **磐城共濟會**

電話六四一番